

保存修復学実習Ⅱ

責任者名：宮崎 真至

学期：後期

対象学年：3年

授業形式等：実習

◆担当教員

宮崎 真至(歯科保存学Ⅰ 教授)
黒川 弘康(歯科保存学Ⅰ 准教授)
高見澤 俊樹(歯科保存学Ⅰ 准教授)
陸田 明智(歯科保存学Ⅰ 准教授)
石井 亮(歯科保存学Ⅰ 助教)
柴崎 翔(歯科保存学Ⅰ 助教)
小森谷 康司(歯科保存学Ⅰ 助教)
青木 文良(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
秋山 佳英(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
天野 晋(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
新井 智(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
五十嵐 薫(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
市石 芳博(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
今井 元(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
岩崎 圭祐(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
金丸 壽良(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
関東 英雄(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
後藤 誠之(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
佐藤 光(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
佐藤 幹武(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
鈴木 敏裕(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
鈴木 治仁(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
福本 敬一(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
本浄 学(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
本浄 奈津(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
真下 裕道(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
宮 直利(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
山口 佳奈子(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
吉田 武史(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
吉野 弘三(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
若松 英輝(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
渡邊 珠代(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
坪田 圭司(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
升谷 滋行(歯科保存学Ⅰ・医療人間科学 兼任講師)
鈴木 総史(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)

野尻 貴絵(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
白川 哲夫(小児歯科学 教授)
菊入 崇(小児歯科学 准教授)
石山 未紗(小児歯科学 助教)
高森 一乗(小児歯科学 専任講師)
武井 浩樹(小児歯科学 兼任講師)

◆一般目標 (GIO)

診療参加型臨床実習で歯科治療を実践するために、シミュレーション実習（模型実習）を通して保存修復領域の基本的臨床技能を修得する。

◆到達目標 (SBOs)

- ① 歯科用器具を安全に操作できる。
- ② 清潔に配慮した操作ができる。
- ③ 医療安全対策を実践できる。
- ④ 標準予防策を実践できる。
- ⑤ 歯科治療に必要な器材の準備、片付けができる。
- ⑥ 前準備処置（ラバーダム防湿、隔壁、歯間分離）ができる。
- ⑦ 間接修復の基礎と臨床を説明できる。

◆評価方法

保存修復学実習Ⅱの成績は、歯科保存学第Ⅰ講座（50%）と小児歯科学講座（50%）の実習評価点数の平均を全体の評価とする。

歯科保存学第Ⅰ講座担当分：

実習成果物および平常試験①～④（50%）、実技試験（20%）および実習に取り組む態度および（30%）で評価する。

実習成果物は完成までの各ステップの評価シートおよび平常試験①～④（4回）にて評価するとともに、フィードバック（解説）を行う。各ステップでの振り返りから、保存修復治療に必要な基本的臨床技能を習熟すること。

実習に取り組む態度はルーブリックを用いて評価する。振り返りで自身の足りない点を自覚し、見直すこと。

小児歯科学講座担当分：実習成果物（30%）、平常試験①～④（20%）および平常試験⑤（50%）で総合的に評価する。

平常試験終了後に内容についてフィードバック（解説）を行い、理解すべき点を明示する。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
宮崎 真至	水曜日 17:00～18:00 歯科保存学第Ⅰ講座教授室	miyazaki.masashi@nihon-u.ac.jp	
高見澤 俊樹	水曜日 17:00～18:00 歯科保存学第Ⅰ講座医局	takamizawa.toshiki@nihon-u.ac.jp	

石山 未紗	木曜日 17:00~18:00 小児歯科学講座医局	ishiyama.misa@nihon-u.ac.jp	
-------	------------------------------	-----------------------------	--

◆授業の方法

学生を A 班, B 班の 2 班に分けて実習を行う。

A 班は学年番号 (4 桁) が奇数の学生グループであり, 1~3 時限目で実習を行う。

B 班は学年番号 (4 桁) が偶数の学生グループであり, 6~8 時限目で実習を行う。

歯科保存学第 I 講座担当分:

実習を始めるにあたり, 当日の内容についてのデモンストレーションを行った後, 各班のインストラクターが補足説明する。15 人程度の学生に対して約 5 人のインストラクターが配属され, 指導にあたる。模擬齲蝕付き人工歯を用いて, 高頻度歯科治療を想定したシミュレーション実習を行う。

【実務経験】宮崎真至: 現在, 在職している日本大学歯学部附属歯科病院保存修復科での経験および歯科保存学第 I 講座の教授として研究等で得られた最新の知見を踏まえながら, 保存修復領域の基本的臨床技能およびこれを支える知識を修得する場を提供したいと考えている。

【実務経験】高見澤俊樹: 現在, 在職している日本大学歯学部附属歯科病院保存修復科での経験を踏まえながら, 共用試験 OSCE および診療参加型臨床実習で必要な保存修復領域の基本的臨床技能を修得する場を提供したいと考えている。

小児歯科学講座担当分:

実習を始めるにあたり, 当日の内容についての理解度を確認するための平常試験を行ったのち, デモンストレーションを含めた実習前講義を行う。実習では個々の学生についてインストラクターがステップ毎に達成度を評価し, 必要に応じて助言とフィードバックを行う。

【実務経験】

石山未紗: 現在, 在職している日本大学歯学部附属歯科病院小児歯科での経験を踏まえながら, 共用試験 OSCE および診療参加型臨床実習で必要な小児歯科領域の基本的臨床技能を修得する場を提供したいと考えている。

◆教材 (教科書、参考図書、プリント等)

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書 1	保存修復学第 7 版	宮崎真至, 千田彰, 斎藤隆史, 向井義晴, 林美加子 [編]	医歯薬出版	2019
教科書 2	保存修復学実習概要 2022	日本大学歯学部保存学教室修復学講座 編	新燈印刷	2020
教科書 3	小児歯科学基礎・臨床実習 第 2 版	前田 隆秀 他	医歯薬出版	2014

参考書	小児歯科学 第5版	白川 哲夫 他	医歯薬出版	2017
-----	-----------	---------	-------	------

◆DP・CP

DP3

コンピテンス：論理的・批判的思考力

コンピテンシー：多岐にわたる知識や情報を基に、論理的な思考や批判的な思考ができる。

DP4

コンピテンス：問題発見・解決力

コンピテンシー：自ら問題を発見し、その解決に必要な基本的歯科医学・医療の知識とスキルを修得できる。

CP3

幅広い教養と歯科医療に必要な体系的な知識を基に、論理的・批判的思考力と総合的な判断能力を育成する。

CP4

歯科医学の基礎知識を体系的に修得し、臨床的な視点で問題を解決する力を養成する。

◆準備学習(予習・復習)

事前に実習書、教科書および保存修復学Ⅱの講義ノート、配布されたプリントを読んで、実習内容および学修到達目標を把握しておくこと。

保存修復学Ⅱの講義の復習は実習に必要な知識の整理に繋がるため、必ず実施すること。

手技に関する質問は実習中に随時受け付けるが、オフィスアワーも有効活用すること。

◆準備学習時間

保存修復学Ⅱの復習および実習内容の確認に要する時間として、3コマの実習時間に対して1時間程度の準備時間を確保すること。

◆全学年を通しての関連教科

保存修復学Ⅰ（3年前期）

保存修復学実習Ⅰ（3年前期）

保存修復学Ⅱ（3年後期）

歯科理工学Ⅱ（3年前期）

歯科理工学実習Ⅱ（3年前期）

ベーシックカリオロジー（3年前期）

クリニカルカリオロジー（3年後期）

臨床実習（5年通年）

臨床実習アドバンスト（6年前期）

◆予定表

回	クラス	月日	時間	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1 ～ 3	A班	8.31	1 ～ 3	【対面】 1. 窩洞形成 1) 診療設備および	・実習室の設備を使用するにあたっての注意事項、器具の名称および使用方法を説明できる。	保存修復	E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因

				<p>器具 の名称と取扱い</p> <p>2) 齲蝕の処置</p> <p>3) 窩洞形成 (1) Class II MO (46) (2) Class I OB (47) (教1) p.67-73, p.109-120 (実習書) 該当ペ ージ</p> <p>4) 平常試験①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・齲蝕病巣の識別と除去について実践できる。 ・感染歯質除去時の留意点を説明できる。 ・基本的な窩洞形成を行い、窩洞の構成ならびに分類を説明できる。 ・平常試験によって学修到達目標に必要な知識を確認・習得する。 		E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の簡単な処置 F-1-2) 医療安全・感染対策 F-3-1) 共通事項
1 ～ 3	B 班	8.31	5 ～ 7	上記と同じ	上記と同じ	保存修復	上記と同じ
4 ～ 6	A 班	9.7	1 ～ 3	<p>【対面】</p> <p>2. メタルインレー修復</p> <p>1) 診療姿勢 (1) 受診者の姿勢 (2) 術者の姿勢</p> <p>2) 窩洞形成 (1) Class II MO (46) (2) Class I OB (47)</p> <p>3) 平常試験② (教1) p.36-40, p.194-196 (実習書) 該当ペ ージ</p> <p>4) 前回の試験結果のフィードバック (個別)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マネキンを使用して、術者の正しい診療姿勢および位置について実践できる。 ・メタルインレーを用いた齲蝕治療の窩洞形成について実践できる。 ・平常試験によって学修到達目標に必要な知識を確認・習得する。 	保存修復	E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の簡単な処置 F-1-2) 医療安全・感染対策 F-3-1) 共通事項
4 ～ 6	B 班	9.7	6 ～ 8	上記と同じ	上記と同じ	保存修復	上記と同じ
7	A 班	9.14	1	【対面】	・感染歯質除去時の留意点を説明で	保存修復	E-3-2) 歯と歯

～ 9			～ 3	<p>3. メタルインレー修復</p> <p>1) 感染歯質の除去 (齶蝕付きレジン歯)</p> <p>(1) Class II MO (46)</p> <p>(2) Class I OB (47)</p> <p>2) 前準備処置 (隔壁および歯間分離)</p> <p>3) 歯面処理</p> <p>4) 練和 (光硬化型ガラスアイオノマーセメント)</p> <p>5) 裏層仮封</p> <p>6) 窩洞形成</p> <p>(1) Class II MO (46)</p> <p>(2) Class I OB (47) (教1) p.120-138</p> <p>7) 前回の試験結果のフィードバック (個別) (実習書) 該当ページ</p>	<p>きる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 隔壁の目的を説明できる。 ・ マトリックスバンドおよびマトリックスリテーナーを用いた隔壁を学ぶ。 ・ 歯間分離を学ぶ。 ・ 裏層の目的を説明できる。 ・ 歯面処理を学ぶ。 ・ 光硬化型ガラスアイオノマーセメントの取り扱いおよび特徴を説明できる。 ・ 裏層後の窩洞形成を実践できる。 		<p>周組織の疾患の特徴と病因 E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の簡単な処置 F-1-2) 医療安全・感染対策 F-3-1) 共通事項</p>
7 ～ 9	B 班	9.14	6 ～ 8	上記と同じ	上記と同じ	保存修復	上記と同じ
10 ～ 12	A 班	9.21	1 ～ 3	<p>【対面】</p> <p>4. メタルインレー修復</p> <p>1) 精密印象採得 (形成済みメラミン歯 46, 47)</p> <p>2) 対合歯印象採得</p> <p>3) 咬合採得</p> <p>4) 仮封 (教1) p.196-199</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ メタルインレーの精密印象採得および対合歯印象採得について実践できる。 ・ メタルインレーの咬合採得および仮封について実践できる。 	保存修復	<p>E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の簡単な処置 F-1-2) 医療安全・感染対策 F-3-1) 共通事項</p>

				(実習書) 該当ページ			項
10 ～ 12	B 班	9.21	6 ～ 8	上記と同じ	上記と同じ	保存修復	上記と同じ
13 ～ 15	A 班	9.28	1 ～ 3	【対面】 5. メタルインレー修復 1)模型のトリミング(窩洞形成済み石膏模型使用) 2)咬合器付着 3)作業用模型の調整 (実習書) 該当ページ	・石膏模型のトリミングおよび作業用模型の調整ができる。 ・咬合器付着時の留意点について説明できる。	保存修復	E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の簡単な処置 F-1-2) 医療安全・感染対策 F-3-1) 共通事項
13 ～ 15	B 班	9.28	6 ～ 8	上記と同じ	上記と同じ	宮崎 真至	上記と同じ
16 ～ 18	A 班	10.5	1 ～ 3	【対面】 6. メタルインレー修復 1)間接法ワックスアップ 2)窩洞形成 3)平常試験③ (実習書) 該当ページ	・間接法ワックスアップについて修得する。 ・試験によって学修到達目標に必要な知識を確認・修得する。	保存修復	E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の簡単な処置 F-1-2) 医療安全・感染対策 F-3-1) 共通事項
16 ～ 18	B 班	10.5	6 ～ 8	上記と同じ	上記と同じ	宮崎 真至	上記と同じ
19	A 班	10.12	1	【対面】	・コンポジットレジジンインレー窩洞	保存修復	E-3-2) 歯と歯

～ 21			～ 3	8. コンポジットレジンインレー修復 1) 器材の名称と取扱い 2) プレウェッジ 3) 感染歯質の除去 4) 窩洞形成 (Class II MO 24) 5) レジンコーティング 6) 仮封 7) 前回の試験結果のフィードバック (個別) (教1) pp.210-215	形成の一般的手順を説明できる。 ・直接法と間接法修復の違いを説明できる。 ・プレウェッジを実施できる。 ・感染歯質の除去を実施できる。 ・窩洞の特徴を説明できる。 ・窩洞形成を実施できる。 ・レジンコーティングを実施できる。 ・仮封を実施できる。 ・平常試験の解説を受けることで手技に必要な知識の習熟を図る。		周組織の疾患の特徴と病因 E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の簡単な処置 F-1-2) 医療安全・感染対策 F-3-1) 共通事項
19 ～ 21	B 班	10.12	6 ～ 8	上記と同じ	上記と同じ	保存修復	上記と同じ
22 ～ 24	A 班	10.19	1 ～ 3	【対面】 9. コンポジットレジンインレー修復 1) 器材の名称と取扱い 2) インレー体の作製 (Class II MO 24) 3) ラバーダム防湿 4) インレー体内面処理 5) 歯面処理 6) 合着 7) 咬合調整および研磨 (教1) pp.210-215	・コンポジットレジンインレーの製作過程を説明できる。 ・コンポジットレジンインレーの装着について実践する。 ・接着性レジンセメントについて説明できる。	保存修復	E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の簡単な処置 F-1-2) 医療安全・感染対策 F-3-1) 共通事項
22	B 班	10.19	6	上記と同じ	上記と同じ	保存修復	上記と同じ

～ 24			～ 8				
25 ～ 27	A 班	10.26	1 ～ 3	【対面】 7. メタルインレー 修復 1)窩洞形成 2)平常試験④ 3) 授業アンケート (実習書) 該当ペ ージ	・メタルインレーの窩洞形成を実践 する。 ・平常試験によって学修到達目標に 必要な知識を確認・修得する。	保存修復	E-3-2) 歯と歯 周組織の疾患 の特徴と病因 E-3-3)-(1) う 蝕その他の歯 の硬組織疾患 の簡単な処置 F-1-2) 医療安 全・感染対策 F-3-1) 共通事 項
25 ～ 27	B 班	10.26	6 ～ 8	上記と同じ	上記と同じ	保存修復	上記と同じ
28 ～ 30	A 班	11.2	1 ～ 3	【対面】 10. メタルインレ ー修復 メタルインレー修 復 1)窩洞形成実技試 験 2)口頭試問	・実技試験(メラミン歯支給)、口 頭試問およびフィードバックから実 習到達目標に必要な知識、技能、態 度について確認・修得する。	保存修復	E-3-2) 歯と歯 周組織の疾患 の特徴と病因 E-3-3)-(1) う 蝕その他の歯 の硬組織疾患 の簡単な処置 F-1-2) 医療安 全・感染対策 F-3-1) 共通事 項
28 ～ 30	B 班	11.2	6 ～ 8	上記と同じ	上記と同じ	保存修復	上記と同じ
31 ～ 33	A 班	11.9	1 ～ 3	1. ラバーダム法 および幼若永久歯 の予防填塞 1)平常試験小児① 2)診療姿勢 3)ラバーダム法 4)歯面処理 5)予防填塞	・小児歯科診療における診療姿勢を 修得する。 ・小児歯科診療におけるラバーダム (防湿)法の重要性を理解し、手順 を修得する。 ・幼若永久歯の予防填塞の要点と手 順を修得する。 ・レジン系シーラント材とガラスア	白川 哲夫 菊入 崇	E-4-2)小児の 歯科治療

				(教3) pp.33-40,108-110,155-158	イオノマー系シーラント材の使い分けについて学ぶ。		
31 ～ 33	B班	11.9	6 ～ 8	上記と同じ	上記と同じ	石山 未紗 菊入 崇	上記と同じ
34 ～ 36	A班	11.16	1 ～ 3	2. 乳白歯のレジ ン修復(1) 1)平常試験小児② 2)ラバーダム法 3)窩洞形成 (教3) pp.33-46,174-175 4)平常試験①のフ ィードバック (個 別)	・乳白歯の形態学的特徴に応じた窩 洞形成の留意点および窩洞外形を学 ぶ。 ・コンポジットレジン修復に用いる 器具の種類と使用方法を学び手順を 修得する。	石山 未紗 菊入 崇	E-4-2)小児の 歯科治療
34 ～ 36	B班	11.16	6 ～ 8	上記と同じ	上記と同じ	石山 未紗 菊入 崇	上記と同じ
37 ～ 39	A班	11.30	1 ～ 3	2. 乳白歯のレジ ン修復(2) 1)平常試験小児③ 2)ラバーダム法 3)隔壁 4)歯面処理 5)充填 6)形態修正および 研磨 (教3) pp.33-47,174-175 7)平常試験②のフ ィードバック (個 別)	・乳白歯の隣接面齲蝕に対する成形 充填材による修復の要点と手順を修 得する。	石山 未紗 菊入 崇	E-4-2)小児の 歯科治療
37 ～ 39	B班	11.30	6 ～ 8	上記と同じ	上記と同じ	石山 未紗 菊入 崇	上記と同じ
40	A班	12.7	1	3. ブラッシング	・保護者に対して小児へのブラッシ	石山 未紗	E-4-2)小児の

～ 42			～ 3	指導およびフッ化物塗布 1)平常試験小児④ 2)ブラッシング指導 3)フッ化物塗布 (教3) pp.105-108,148-149,153 4)平常試験③のフィードバック (個別)	ング法を指導するうえでの要点と手順を修得する。 ・小児患者に対するブラッシング指導の要点と手順を理解する。 ・フッ化物塗布による齲蝕予防の要点と手順を修得する。	菊入 崇	歯科治療
40 ～ 42	B 班	12.7	6 ～ 8	上記と同じ	上記と同じ	石山 未紗 菊入 崇	上記と同じ
43 ～ 45	A 班	12.14	1 ～ 3	4. 総括 1)総括 2)平常試験小児④のフィードバック (個別)	・実習全体を通して達成度を自己評価し、不足があればその項目について再実習を行う。	石山 未紗 菊入 崇	E-4-2)小児の歯科治療
46	A 班, B 班	12.14	4	5. 一斉試験とフィードバック 1)総括試験 2)総括試験のフィードバック	・実習内容についての全般的な理解度を試験する。 ・実習時間内に、試験で出題された内容についての重要ポイントを理解する。	石山 未紗 菊入 崇	E-4-2)小児の歯科治療
43 ～ 45	B 班	12.14	6 ～ 8	4. 総括 1)総括 2)平常試験小児④のフィードバック (個別)	・実習全体を通して達成度を自己評価し、不足があればその項目について再実習を行う。	石山 未紗 菊入 崇	E-4-2)小児の歯科治療

担当グループ一覧表

グループ名	教員コード	教員名
保存修復	703	升谷 滋行
	1173	陸田 明智
	1179	黒川 弘康
	1539	坪田 圭司
	2973	石井 亮
	2976	野尻 貴絵
	3098	小森谷 康司
	3439	柴崎 翔
	3000171	青木 文良
	3000173	天野 晋
	3000174	新井 智
	3000175	五十嵐 薫
	3000176	市石 芳博
	3000177	今井 元
	3000178	金丸 壽良
	3000179	関東 英雄
	3000180	後藤 誠之
	3000181	佐藤 光
	3000182	佐藤 幹武
	3000183	鈴木 敏裕
	3000184	鈴木 治仁
	3000185	福本 敬一
	3000186	本浄 学
	3000187	真下 裕道
	3000188	吉野 弘三
	3000189	若松 英輝
	3000190	秋山 佳英
	3000192	岩崎 圭祐
	3000193	吉田 武史
	3000195	本浄 奈津
	3000197	渡邊 珠代
	3000198	山口 佳奈子
	3000200	宮 直利
	3000600	鈴木 総史
	1332	高見澤 俊樹
小児歯科	2007	高森 一乗
	2292	武井 浩樹
	1537	白川 哲夫
	2675	石山 未紗

	3590	菊入 崇
--	------	------

